令和３年度（2021 年度）北海道社会教育セミナー　事業報告書

○　事業の概要

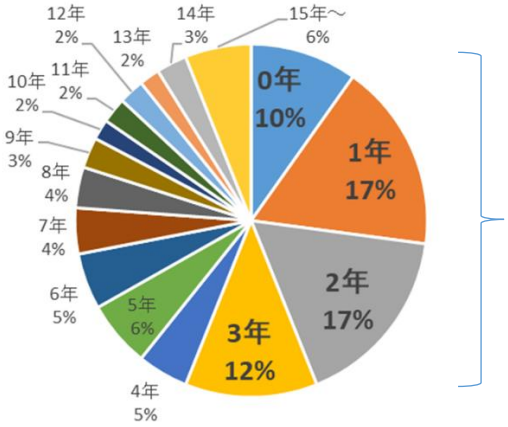
１　事業名
令和３年度（2021 年度）北海道社会教育セミナー

２　開催日時
令和３年（2021 年）６月３日（木）9:00～17:00、６月４日（金）9:00～15:00

３　開催場所
オンライン配信（北海道立生涯学習推進センター　創作実習室）

４　参加人数
２１４名

５　参加者の社会教育、生涯学習に携わっている経験年数

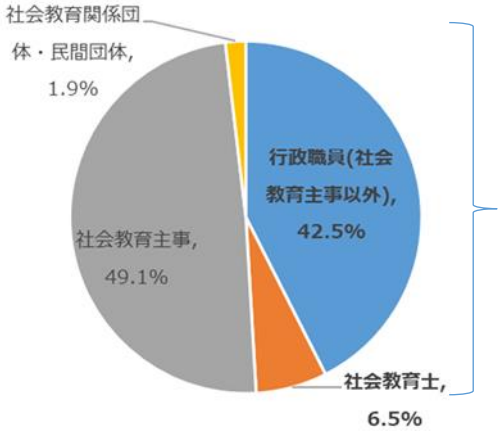


０年～３年
56.1%

６　参加市町村数

空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	
7/24	6/8	9/20	4/11	5/7	3/11	6/7	
上川	留萌	宗谷	ｵﾎｰﾂｸ	十勝	釧路	根室	全道
12/23	4/8	5/10	10/18	11/19	4/8	4/5	90/179

７　参加区分



行政職員・社会教育士
49.0%

8　プログラム

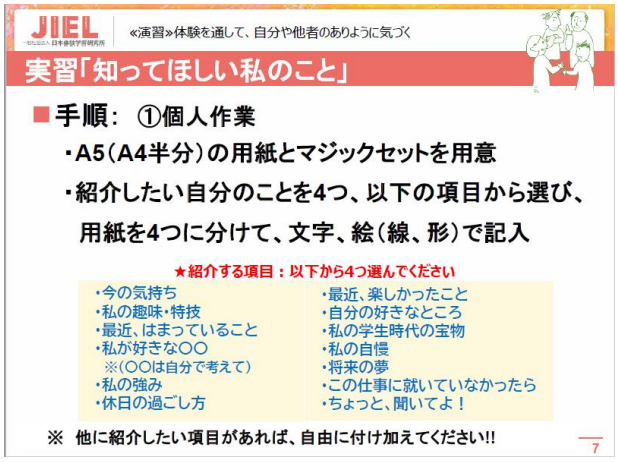
一日目	9:00	9:00～9:05	9:05～9:20	9:20～9:50	10:00～12:00	13:00～15:00	15:10～17:00
	開会	所長挨拶	行政説明	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ テーマ説明	演習１	演習２	研究協議１
二日目	9:00	9:10～10:30			10:40～12:00	12:00～12:30	13:30～15:00
	再開	講義			研究協議２	まとめ・閉会	交流会

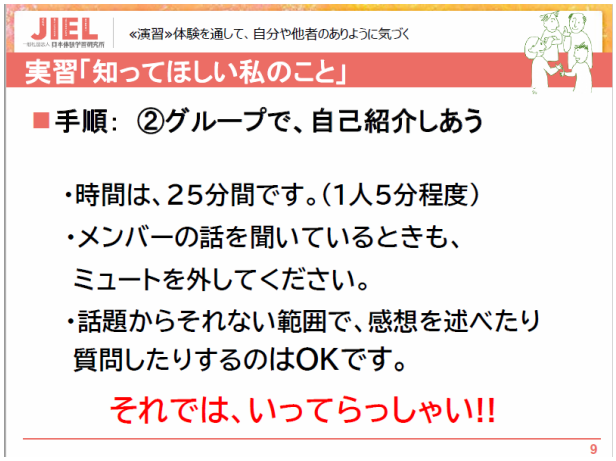
所長挨拶		・道教委の組織機構改正について ・社会教育セミナーについて	左記２点をお伝えする動画を作成し、放映した。
行政説明		・地学協働事業について ・社会教育主事講習について ・ネイパルの臨時休館について	左記３点を、各事業担当者が説明した。
演習１・２	「体験を通じて、自分や他者のありように気づく」	一般社団法人 日本体験学習研究所（JIEL） 研究員　　岡田衣津子　氏	自らの自己肯定感が変容する実感を得ることで、その実感を住民にも得てもらうための手法（演習の方法、プログラムへの反映方法）を学んだ。
講義	「人との関わりを紡ぐ ―自己肯定感を育む ポイント―」		
研究協議１	自己肯定感に働きかける事業プログラム作成	＜想定するプログラム対象者＞ 【分科会１】 未来を担う子どもたち 【分科会２】 学校を核とした地域づくりの担い手 【分科会３】 孤立しがちな地域住民 【分科会４】 地域を担う若い働き世代・子育て世代	個人で「５Ｗ１Ｈ」で事業プログラムを作成し、分科会グループでの交流・検討を通じて、プログラム対象者の自己肯定感を育むための要素を洗い出し、グループ内及び分科会内で交流した。
研究協議２			
交流会	フリートーク	任意の希望者によるブレイクアウトルームを活用した交流	申込の際に提案のあった課題（テーマ）ごとに出入り自由のルームを設け、交流した。

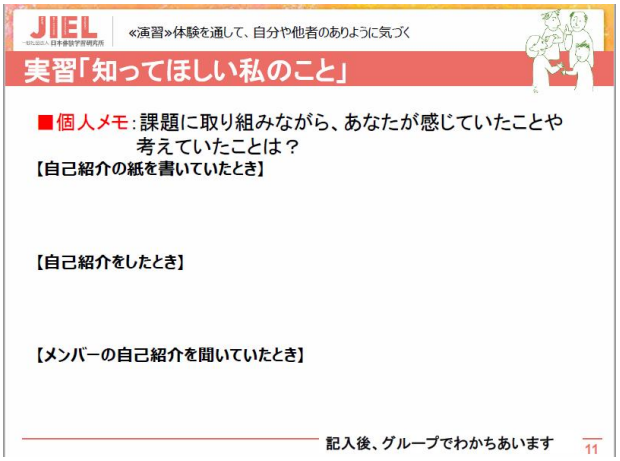
（１）演習１・２「体験を通じて、自分や他者のありように気づく」詳細

自己肯定感を高めるキーワードとして「自分に気づく」、「自分の可能性を信じる」、「多様な他者とかかわる」が掲げられ、「実際に体験する（他者とかかわる）ことから、自己肯定感をはぐくむ方法を学ぶ」ことを目的に、様々な実習メニューが用意され、グループワークが行われた。

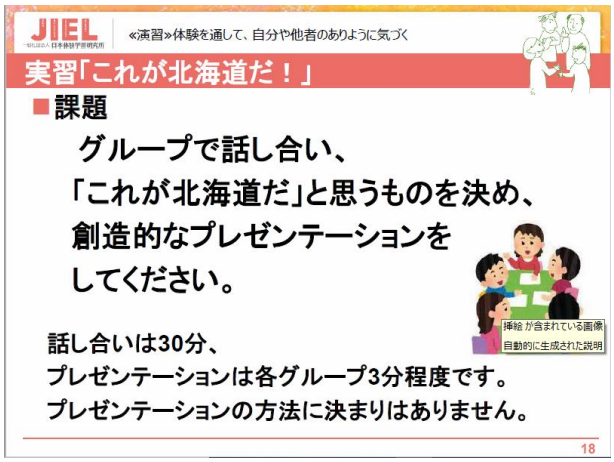
＜例：実習「知ってほしい私のこと」＞

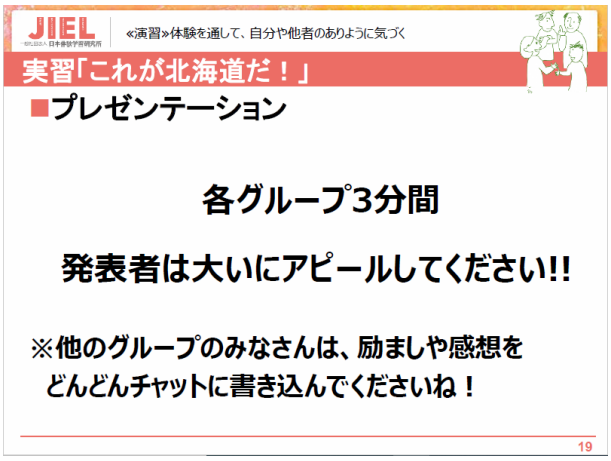


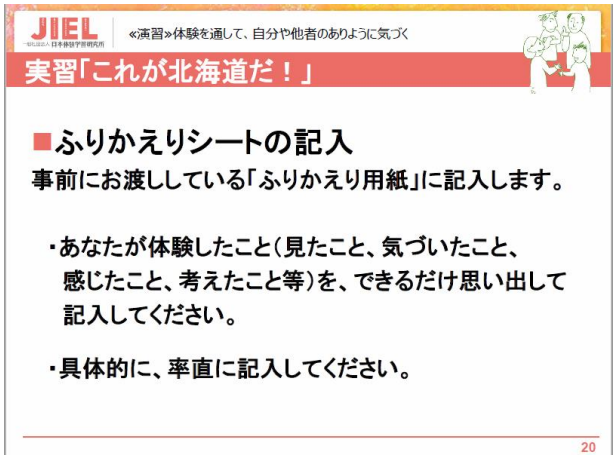


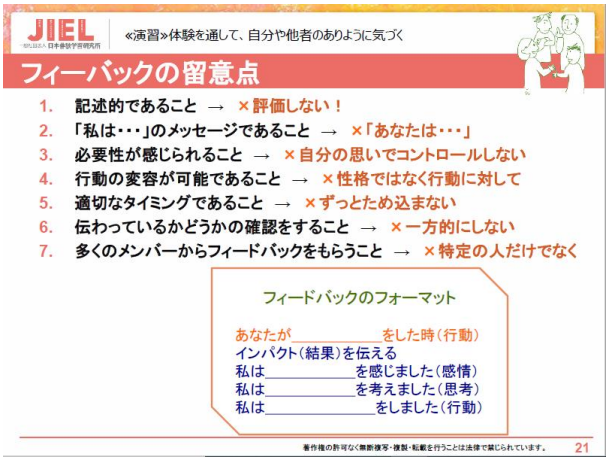


＜例：実習「これが北海道だ！」＞

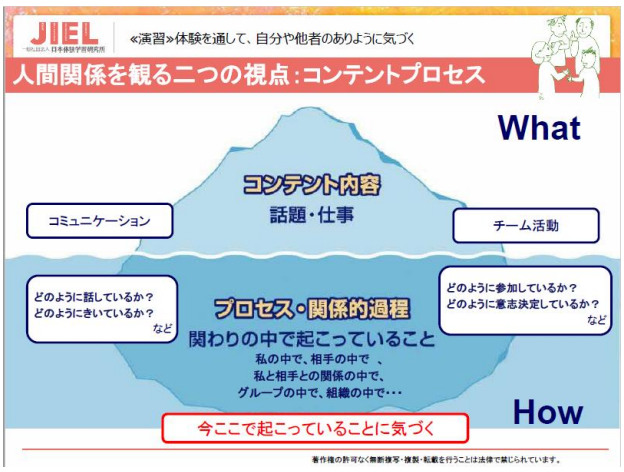








いずれの実習メニューにおいても、「他者と関わることで、自分や相手の中で、グループの中で、今、起こっていること、具体的には『どのように話しているか？』、『どのように聞いていか？』、『どのように参加しているか？』、『どのように意思決定しているか？』等の『プロセス』に気づくことが重視された。

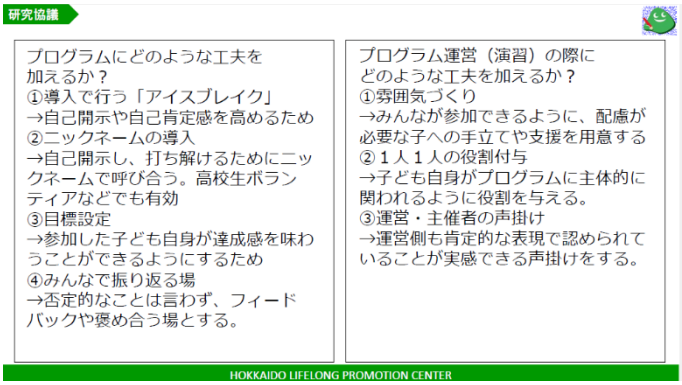


（2）講義「人との関わりを紡ぐ―自己肯定感を育むポイント―」詳細

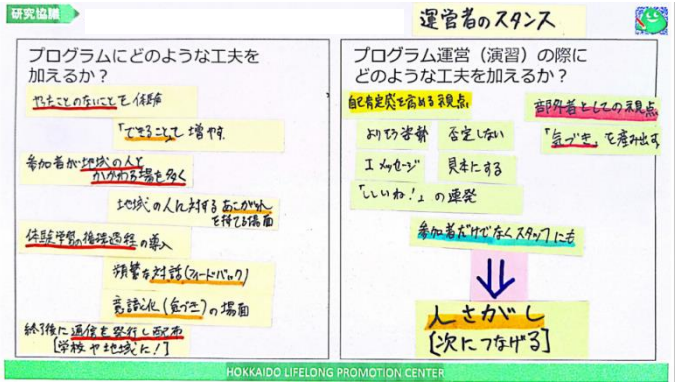
講義後の研究協議での事業構想プログラムの作成の観点を参加者へ与えることを目的に、講師の岡田衣津子氏から、実際に名古屋市スポーツ市民局地域振興部地域振興課のコミュニティサポーターとして実践したことを題材に、どんなことをしたらどう参加者に変容が見られたか？の具体例が示された。

（3）研究協議１・２「自己肯定感に働きかける事業プログラム作成」における各分科会のまとめ資料例

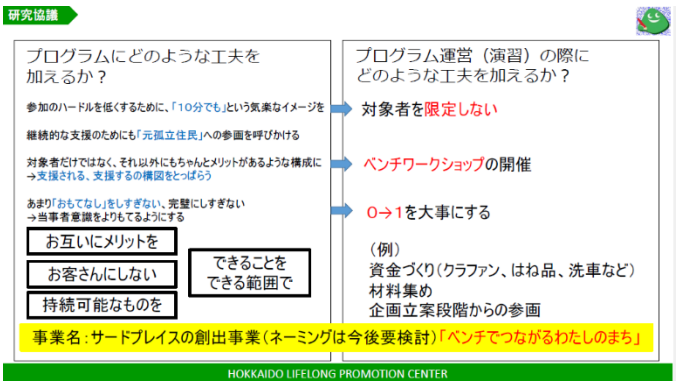
【分科会１】未来を担う子どもたち



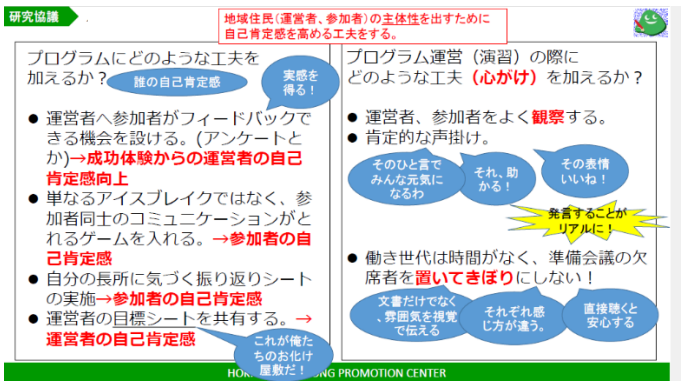
【分科会２】学校を核とした地域づくりの担い手



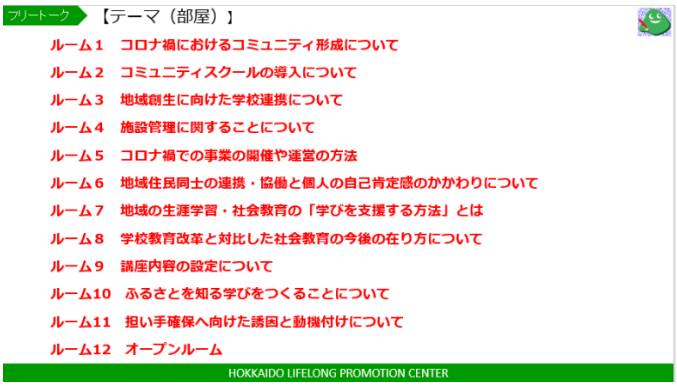
【分科会３】孤立しがちな地域住民



【分科会４】地域を担う若い働き世代・子育て世代



（4）交流会「フリートーク」で提案のあった課題

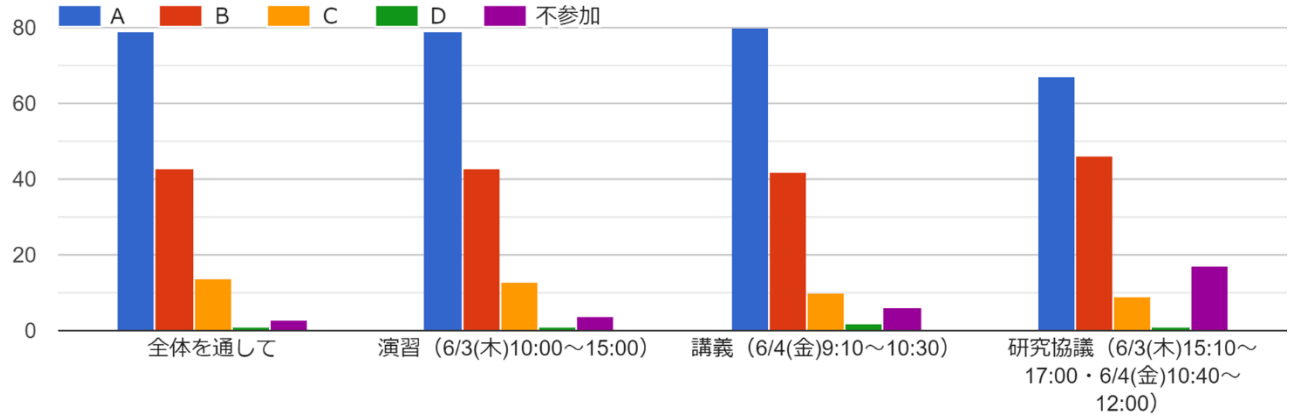


○　成果と課題

参加者アンケートをもとに、「テーマ」と「運営方法」について、成果と課題を整理する。

参加者アンケート回収率　　６５．４％　（回答数１４０件／参加者数２１４名）
参加者アンケート実施方法　Google　form

1　テーマ・内容について
（1）アンケート結果
３．本セミナーの満足度をお聞かせ下さい。（満足度(高)Ａ←→Ｄ(低)）



４．本セミナーに参加して、気づいたこと、感じたこと、これから実践したいと思ったこと等、御感想をお聞かせください。

【肯定的意見】

・自己肯定感の高まりとともに、町内会長の成長のように**何歳になっても学び、成長するチャンスがある**ものだと再確認させられた。
・自己肯定感や自己有用感を高めよう、という場に参加したことが**今までなかったため新鮮**だったとともに、自己開示やフィードバックを通して**自己肯定感・自己有用感が高まるのを感じる**ことができました。
・地域の方と楽しい話をすることから、現実に楽しい事業を行うことへと展開されていくことを学んだので、まずは**地域の中に入りいろんな方とお話をしよう**と思いました！
・今回の講義にて改めて**自己肯定感の重要性**を学ばせていただきました。
・**言葉の使い方の大切さ**を知ることができた。これから言葉の使い方を肯定的なものとするようにさらに意識していきたい。
・**対話をすることの重要性**を感じました。
・自分の自己肯定感が高まることによって、**相手への肯定的な働きかけがより機能**していくのではないかなと感じました。
・社会構成主義の考え方はとても参考になりました。**言葉の持つ意味、重み**を改めて感じました。
・大人にとっても**自己肯定感を育てる意識は必要**。社会教育、生涯学習の意義を感じました。
・**人とのつながりはやはり必要**なのだなといつも感じます。
・講義の中で脳トレみどりの事例を聞いたとき、当町にも近いものを感じました。行政主体、行政だよりの団体運営を複数抱えており、今までは人口減少と高齢化による人員不足のためしょうがないと思っておりましたが、語る場の提供はしたことがなかったと気づきました。**アプローチの仕方を少しずつ変えていきたい**と思います。
・具体的な結論を探求するのではなく、**抽象的でもその過程が大事**だと気づかされました。
・学校教員は子供たちに当たり前のように相手の良さを見つけ、しっかり表現することができますが、今回の講義や演習を通して一般の方には意外と難しいことと気付きました。私たちがまず相手との対話を大切なこととととらえ、**対話を通して相手のよさを日頃から自然に伝えられるようにしていく**ことから始めていければと思います。

・これから事業を進めるにあたって、どのように工夫すれば参加者の自己肯定感が高まるのかというところを意識しながら取り組んでいきたい。
・自己肯定感を高めるための工夫について、大いに学ぶことができました。ありがとうございました。特に、参加者の自己開示、安心感を与える、主体的に学ぶことができる環境づくり等、分科会での議論で考えを深めることができました。
・自己肯定感を意識してプログラム作りをしていきたいと思います。
・自己肯定感向上を意識して、この仕事に勤めていきたいと思います。
・自己肯定感、自己有用感が様々なことに影響すること。
・自己肯定感を高めるためにはプログラムの工夫もさることながら、人と人との対話、その中で生まれてくるほめたり、認めたり、励ましたりする声かけの大切さを改めて感じました。
・自己肯定感を上げる方法について、参加者側の視点に目が行きがちですが運営側の視点も大事だと気づきがありました。グループワークの中でもいろいろと今後のヒントをもらいましたので非常に身になるセミナーでした。ありがとうございました！
・コミュニケーションを取っていくことの重要性を感じました。
・事業の中でお互いを認め合う工夫、仕掛けが今後不可欠になると感じた。
・自己肯定感、自己有用感を高めるために、改めて自分のことを見つめなおす手法を様々な場面で取り入れたいと思います。
・自己肯定感も大切ですが、地域肯定感も高められるよう実践したい。
・自分と関わる相手だけでなく、自らも尊重することも自己肯定感の向上になるのだと、改めてしれました。
・参加者及び運営者がお互いに自己肯定感を高めることが大切だと実感することができました。
・社会教育施設や下記市町村の教育委員会の事業など、もっと積極的に協力できるような繋がりを作りたいと感じた。
・対話の場づくり、フィードバックを充実させることをこれからの社会教育事業に落とし込んでいきたい。体験だけで終わっていた事業もあるので、上記のことを意識して行いたい。また、お互いを評価しあう（いいことについて）時間を作ることでお互いの自己肯定感を高めることができると思った。自己評価に関しても、始めと終わりで出来るようになったこと学んだことを振り返る時間を作ると良い。とても有意義な時間が過ごせました。このような環境を用意してくださりありがとうございました。
・今年度実施予定の事業プログラムについて考えていただいたので、出来る限り実践したいと思います。
・振り返りを行うとどうしてもマイナスイメージなことを言ってしまいがちでしたが、周囲からのフィードバックも盛りだくさんだったので、自己肯定感を感じることができました。見る人によって捉えられ方が異なり、興味深かったです。ありがとうございました。
・今までは研究協議が抽象的なことが多く、何を話していいのかわからないことが多かった。今回は具体的な事業から考えることができて、実際の仕事とリンクしてとても考えやすかった。よく、社会教育とはなにか、社会教育主事に求められる役割などいろいろあったが、なかなか難しいところが多かった。
・振り返りシートのフィードバックをした時に自分はほかの人からこういう風に見られていたというのが分かったのと、褒められたり肯定的な意見を言われたときにうれしいと思ったので、フィードバックをすることは自己肯定感を上げるために大切なことなんだなと思った。
・体験活動において自己肯定感、自己有用感を育むためにどのような活動を取り入れるとよいかを考え、交流を通して理解を深めることができた。
・今回の研修テーマである、他者との関わり合いの中で視点を広げられるようになりたいと思います。
・自己肯定感を高めるうえでプロセスやフィードバックの重要性を知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
・自己有用感についてこれまでは考えたことがなかったので、新たな気づきを得られてよかったと感じた。
・自己肯定感を高めるための手法について学ぶことで、今後の事業企画や運営の参考となりました。今まであまり気にせず目的達成のみ意識していたので、参加者の行動変容や意識変容に繋がるようにしていきたいです。
・事業参加者の自己肯定感をどう高めるかなど勉強になりました。
・地域の意見を取り入れる際、行政がすべてを進めるのではなく、意見をどう引き出すかを誘発する策を考える良い機会となりました。
・自己肯定感を意識した事業づくりの観点では、これまでも意識せずに取り組めていたことも多くあると感じました。講義等を通じて得た知識をプラスしたり、これまで自然と取り組んでいたことも意識的に取り組んでい

きたいと思いました。
・自己肯定感を高めるためのフィードバックについて、理解することが出来た。今後は自己肯定感向上を念頭に置いて、事業展開をしたいと思う。
・コミュニティーサポーターとして関わった具体例を聞けたのが良かったです。
・変な壁を作らず、フィードバックをしたり、受けたりすることができる人間関係を作っていきたい。
・今回のグループワーク（これが北海道）など、実際に事業で実践したいと思いました。
・実践的な演習すごくためになりました。今後の事業計画や事業運営に取り込んでいこうと思います。
・教育行政に携わるのは１年目なので、オリエンテーションで今回の社会教育セミナーの目的の説明が簡潔で理解しやすかった。地学協働活動の推進が社会教育の発展ひいては地域の発展につながるということでは、これまでの仕事で携わってきた「地域づくり」の視点と同じなのだと気づくことができた。
・自己有用感・自己肯定感を高めるためのコミュニケーションの方法を学ぶことができたとともに、今後の業務に非常に役立つと感じました。
・講義の中で一番印象に残ったことは、「自己開示をすると人間関係が円滑になる」ということです。職場においても実践していきたいと思います。
・学習者の自己肯定感を高めるため、学習に臨むにあたって、目標の共有や個人のねらいを設定できるような働きかけが重要だと感じました。

【批判的意見】
・コロナで事業が潰れていることもあり、経験の浅い人には研究協議の内容が難しかったように思う。初心者向けの分科会があっても良かったように思う。
・社会教育の根本的な概念をもう少し知りたかった。
・全体的に自己肯定感について学ぶ部分がほとんどだったので、もう少し社会教育的視点を含めたお話があると嬉しかったです。
・自己肯定感を高める働きは、社会教育においてどの程度実践されていて、どのような効果が出ているのか実際の事例に基づいての話を聴く機会が今後あると良いと思った。お互いを褒めあうことも大事だが、そこばかりに焦点を当ててしまうと、綺麗ごとばかり、上部ばかりで、傷の舐めあいになったり、本音で語れない関係になってしまう危惧もあるのではないかと思ったりしますので、関係性の構築といった視点から、自己肯定感を高める働きかけが大事なのではないかと思います。今回のワークも相手の発表の良かった点悪かった点をシャアする場面があるとより自分事として向上心をもって物事に取り組むことができるのではないでしょうか。
・オリエンテーションの説明内容と研修内容とずれていると感じた。
・自己に対して否定的になる時間も大事ではないかと思う。みんな違ってよいのでは？比べることに意味があるのかな？と思いました。
・「自己肯定感の高め方」として講習をお聞きしましたが、班ごとの発表後の、最終的な自己評価発表時に、自分の参加した班は軒並み低かったので、難しいことだな、と思いました。

（２）成果と課題

「セミナーの満足度」については、80％以上の参加者が「A」または「B」と回答しており、かつ、テーマに関して 56 件の自由記述の感想が寄せられた内、49 件が肯定的意見であったことから、「人との関わりの中で、自分を認め、相手を受け入れる経験をとおして、自己肯定感が高まる実感を得る」というセミナーの目的が、多くの参加者の元で達成されたと考える。

一方で、社会教育、生涯学習に携わっている経験年数が３年以下という若手職員の方々が全体の参加者の半分以上を占める中、批判的意見として「社会教育の基礎的内容」を求める声も複数出ており、メインの参加者の経験年数や置かれている環境を踏まえてのテーマ設定が今後は必要である。

２．運営方法について

（１）アンケート結果

【肯定的意見】
・オンラインでここまでできるのがすごいと感じました。そして、多くの人と話し、意見交換する機会をいただきありがとうございました。
・通信障害時などの対応は良かった。

・交流の機会が多く、「ただ受けるだけの研修」でなかったことは大変良かった。
・積極的なグループワークの取り組みがとてもよかったです。直接は会えませんが新しいコミュニティを形成することもでき、研修の目的にプラスして同じ社会教育関係者としての仲間作りも十分に行うことができました。また、グループワークのおかげで自己肯定感を高めることができそのグループ内での声かけ等を現場にて児童生徒向けに問いかけてあげたいと思いました。
・コロナ禍でなかなか他の人たちの話を聞いたりすることが難しいので、このような機会にいろいろな話を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。
・他の市町村の方と情報交換もでき、有意義な時間でした。
・岡田講師の講義がとても参考になりました。また、実際に小グループで何度もワークを重ねることで「安心できる場をオンラインでもつくることができる」ことを体感できました。ありがとうございます。
・これまで受講したZoomの研修会は、講義形式が多くずっと受け身になることが多かったのですが、参加している感じが大きいセミナーは初めてでした。
・最初から一貫して同じグループ構成は交流の面からもすごくやりやすかったです。社会構成主義という言葉はとても参考になった。今後生かしていきたい。
・zoomでの開催ということで分科会での話がスムーズにできるか不安でしたが、思っていたより意見交流が活発にできました。
・これまでの ZOOM 講習と比べ運営がスムーズで、非常に受講しやすかった。ほかの参加者とも意見交換の時間が多く、よかった。
・ブレイクアウトルームを活用しながらのオンライン研修が、非常に効果的でした。
・新たな発見があったというよりは、JIEL という団体を知ったこと、他市町村との交流が良かったです。体験を伴う研修は充実感はありますが、時間がかかるものですね。
・このコロナ禍の中、なかなか人と話をゆっくりする機会はなかったのですが、様々な方々と交流するころができとてもよかったです。人と話すことの大切さを改めて実感しました。勉強になりました。
・グループワークはzoomの機能を駆使することで、ここまで臨場感のある話し合いができると思っていませんでした。とても楽しかったです。
・２日間かけて同じ人と協議していくことがとてもよかった。
・岡田先生から聞く話とワークの連関が鮮やかで、面倒なワークも考えやすかったです。かくありたい。
・グループワークにおいては、画像や資料を参加者で共有を図り、オンラインにおいてもリアルに近い作業ができた一方で、google等のクラウドアプリを使うとより良い共同作業ができたかもと思いました。良い学びの機会をいただきましてありがとうございました。
・オンラインも回数こなしてきたので、スムーズな進行だったと思います。
・Zoomを用いた研修会に参加することで、自町の事業手法の勉強にもなりました。
・本題に入る前の「自己紹介」や「今日の気持ち」を確認する手法など、参加者が話に入りやすいテクニックを学ぶことができたため、団体の会議など使える場面があれば直ぐにでも実践したい。
・ブレイクアウトシステムの活用は、時間的な短縮、人数配分、また参加者が必ず話す時間を確保されていた。オフとオンの使い分けもこれから十分に考えられると思いました。
・Zoomは初めてで、勉強になりました。今度は自分がZoomを使っての事業を展開したい。
・本来であれば直接皆様とお会いして、交流できるのが１番ですが、中止ではなくオンラインにて開催していただけたこと感謝しております。
・zoomの可能性を強く認識しました。
・ZOOMの活用方法等、講義内容外の部分でも勉強になる点が多く、非常に参考となった。
・本研修会のグループワークではオンライン上ではあったものの、多くの時間を共にしたことで交流を深め、繋がりを作ることができました。
・オンラインでのコミュニケーションのとり方が参考になりました。
・昨年度からコロナ禍での研修ツールとしてZoomを活用する機会が増え、主催側・受講側ともに操作性が向上していると感じました。集会型でなくても、学びの場をつくることができると実感しました。特に、ブレークアウトルームの活動では、これまでは時間が足りないこともありましたが、ゆっくりと時間が設定されており消化不良は少なかったです。

【批判的意見】

・毎回参加して感じるのですが、分科会の議論の内容が難しいので、話し合いがうまく進みません。もっとシンプルな議論になりませんでしょうか。話し合う過程を大切にするためにも、貴重な情報交換とするためにも課題提示をシンプルにしてほしいです。
・研究協議の課題である事業構想シートが少々難しかったです。何か例があればよかったかなと思いました。
・タイムテーブルにできる限り沿って行った方が良い。
・直接顔を合わせて、研修に参加したかったです。
・目的が漠然としたままグループ部屋に移動させられる印象が強く、グループワークの回数を絞るか、目的をしっかり明示して欲しかった。
・全体的に時間配分にゆとりがありすぎて間延びした印象がある。チェックイン、自己紹介、研究協議の時間はあんなにいらなかったのでは（話しが尽きて時間を持て余すことが多く、世間話でつなぐ場面も。これならもっと他の研修項目も入れられたのではと勿体なく感じた。当日の欠席があり、グループ内の人数が極少人数になったためもあるかも。難しいですね。）演習、講義の内容も真新しさがなく、既に何度も社会教育の研修で触れられてきた内容を表面だけさらった印象がある。
・「演習」と「分科会」はグループを分けてもよかったのでは。多くの人ともっと交流できたら良かったなと思います。
・オンラインでの実施でしたので、タイミングが難しかった。
・今後、センターが主催する研究会に関わって、ネイパルには指定管理者への案内だけでなく、駐在の社会教育主事にも案内を発送していただくようお願いいたします。メールでもいいので、よろしくお願いします。今回は参加案内がなかったため申し込みが遅れてしまいすべての日程に参加できなかったので…。
・同じグループで長時間の演習が大変だった。
・分科会（学校を核とした地域づくり）でしたが、単なる市町村や道立施設の事業になっていて、分科会１と変わらない。分科会の協議の視点（学校を核とした）をしっかりしないと、分科会に分かれる意味がない。
・２名以上の団体参加と個人参加が協議を行うのは、やりづらい面がありました。
・今後の参考のため、皆さんの事業構想シートが見たかったです！
・最後のグループ協議で、センター職員の声がPC越しに重なっていました。（萌さんと松浦主査の声かと思います。可能であれば、司会等が想定されている場合は空間を分けて運営できると良いかと感じました。）
・zoom開催のため少しグループでの意思疎通が難しく、研究協議は不十分な結果になったと個人的には感じました。
・分科会では、「どうしたらいいかわからない」「もっと考え方や知識を学びたい」と思って選択したのですが、いきなり少人数の小部屋に分かれて事業構想を考えていくのは厳しかった。少しでも、その分科会テーマについての講義があり、考えが深まってから、その内容を踏まえた研究協議が出来ればよかった。また発表したことについて、ホストの方から講評や評価を受けられればよかった。発表を聞いた方々の感想しか聞かれず、考えた内容が本研修の内容に沿っていたのかどうかも不安なまま、満たされないまま終わってしまった。
・演習で同じ自治体の職員と２人っきりになってしまい、あまりグループでの話が盛り上がらなかったので、次回以降メンバーの割り振りを考えていただくとありがたい。
・Googleフォームでデジタルアンケートを取る場合には、回答者に対して、メールアドレスの収集をしているかどうかを明示するのが良いかなと思いました。
・今回の研修では、休憩時間が参加者同士寸断されていたので、雑談をする時間があるといいんだろうなという気づきがありました。このようにグループワークを多く取り入れる場合、実は、ワークの中身よりも雑談こそがアイデアの幅を広げる可能性を秘めていると感じました。

（２）成果と課題

「オンライン開催」、「ブレイクアウトルームによる頻繁なグループワーク」、「セミナーを通しての一貫したグループ編成」による運営は、多くの参加者から肯定的に受け入れられたと考える。

一方で、研究協議（分科会）の「わかりにくさ」及び「難しさ」を指摘する声も多く、研究協議（分科会）で設定した「視点（対象）」への参加者の理解を促す機会と、「シンプルさ」が必要であった。

また、セミナー時間外のフリーの交流会の時間は好評であったため、今後も同じような交流の機会をセミナーごとに設定していくことが重要である。